

認知スタイルと言語類型



西光義弘

くろしお言語大学塾

はじめに

- 言語類型の裏に認知過程の違いが反映しているという仮説を立てるために認知過程の違いの研究として認知スタイルの研究を見、そこから言語類型と認知スタイルの相関の可能性を探る。

'hot' cognitionと 'cool' cognition

- Abelson, R.P. (1963) "Computer simulation of 'hot' cognition," in Tomkins and Messick eds. *Computer Simulation of Personality*. Chichester: Wiley. Pp.277-298.
- 'hot' cognition: あせっている状態。余裕がなく、視野が狭くなる傾向がある。
- 'cool' cognition: 落ち着いている状態。用心深く調べた後に判断を下す。周りがよく見えている。

認知スタイル(cognitive style)

- 認知スタイルは通常個人的特性として研究されてきた。
- Field-dependent vs. field-independent.
- Reflective vs. impulsive. (認知テンポ)
- Reflective: 反応する前にいろいろな代案をゆっくり検討する。
- Impulsive: 急いで反応するのでエラーが多くなる。
- 拡大解釈すれば国民性に当てはめられうる。

視覚の3分類

- (1) 眼前の状況にあまり動きがなく、状態となっているか、状態に近い場合：知覚者主導で、周りを見渡し、ゆっくりと判断できる。
- (2) 動きをはじめるものにはじめから注目しているか視野に入っている場合：目で動きを追っていくので、動きに導かれる形をとり、心の準備がある程度できている。
- (3) 急に横合いから音がして振り向く場合：心の準備が出来ていず、余裕はない。